

宮城県理事・広報委員長を拝命して

土木地質（株）代表取締役社長

高橋 克実



昨年5月の定期総会において、宮城県理事及び広報委員長を拝命しました。当協会の対外窓口と協会誌「大地」編集・発行を広報の主な役割とし、早坂理事長始め各理事の方々の暖かいご支援をいただきながら、委員長会の重責まで担わせていただいています。

私は1950年寅年の生まれで、実家は今も宮城県遠田郡南郷町（現美里町）にあります。高校は古川市（現大崎市古川）に通学しましたので、宮城県のなかでは県北生まれの県北育ちでしょうか。その後、大学時代からはずっと仙台市にお世話になっています。教育系の大学でしたが、“教員にならなくとも地質の勉強を生かす仕事がたくさんあるぞ”という大学教授の薦めで、卒業後は電気工事会社の調査部門で送電線ルート踏査選点・鉄塔基礎調査に5年ほど従事しました。新潟県を含む東北7県を仕事で巡り歩き、東北各県の地質を知ることの面白さを実感しました。この時期には、大学出掛けの頃に囁かれた“なぜ教員にならなかったのか”という周囲からの呪縛が解かれ、地質・コンサルに専念することを決意したものです。これを機に、弊社に移り30余年になります。

近々のこととして防災に関わる者としての宿命らしきことを感じております。生まれ故郷南郷町の隣町、矢本町（現東松島市）周辺を震源とする平成15年宮城県北部連続地震がそれです。家中の家具やテレビが吹き飛んだという一人暮らしの父親をそのままに、隣町に詰めているながら仕事を優先させ、災害調査・設計の陣頭指揮に明け暮れた日々を思い出します。昨年11月、この父を86才で亡くしましたが、親不孝を承知で私を現場に送り出してくれたことに今でも感謝して

います。告別式で拝聴した弔辞のなかに、農業土木技術者として多くの方々に慕われた父を知り、私も同じ技術者の血を受け継いでいたことに気づかされたところでした。

話題を変えて、今の住まいである青葉区国見ヶ丘に移り住んで2年になります。国見ヶ丘は高台にあるため、市街地よりは約1～2度気温が低く、夏は涼しいが冬は寒いといわれています。雪が多い今冬は前庭の雪がなかなか消えそうにもなく、その寒さを今もって体感しているところです。お気に入りは、団地内にその特徴を名付けた「——の丘」と称する公園が散歩コースとして随所に整備されていることです。そのひとつ「みはらしの丘」からは眼下に仙台湾や仙台市街地が望めます。写真は、仙台湾に昇る日の出をとらえたものです。また、自宅では手作りのバードフィーダーを庭木に吊し野



我が家のバードフィーダー群



メジロの飛来

鳥たちを寄せています。今のところ、スズメ、メジロ、キジバト、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリを見かけます。時折、カワラヒワやジョウビタキも侵入してきます。遊び心のなかに、ささやかな“癒し”を求めているところです。

おわりに、広報委員長という要職を拝命し、新たな気持ちで2011年を迎えました。大げさかもしれませんが、私たちの周りには暗黙の“順番、順送り”が

存在していると考えています。これまでに受けたご恩やご指導・ご鞭撻に対して真摯に報いること、そして次世代に順送りすることが課せられているとの想いです。その意味で、昨年設立50周年の節目を迎えた当東北地質調査業協会の明日に向かい、微力ながらお役に立ちたいと考えています。精一杯取り組んで参りますのでよろしく願いいたします。



「みはらしの丘」からの日の出(2011.1.3撮影)